

[成果情報名]イチゴ「恋みのり」の花芽分化特性及び花房連続性

[要約]「恋みのり」は「さちのか」と比べ頂花房の花芽分化が同等か早く、頂花房と第1次腋花房の花房間葉数が少なく、花房の連続性に優れる。成熟日数が短いうえに平均1果重が重く、1月までの収量が多くなる。

[キーワード]イチゴ、恋みのり、花芽分化、花房連続性、収量

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先](代表) 0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[作成年度]2018年度

[背景・ねらい]

本県におけるイチゴ品種は、「さちのか」から多収で輸送性に優れる「ゆめのか」への転換を図り、平成29年には農協系統の65%占める主力品種となっている。

一方で、九州沖縄農業研究センターで育成された新品種「恋みのり」が県内では平成29年から試作導入されている。しかし、「恋みのり」は他県でも栽培事例がまだ少なく、その栽培特性に不明な点が多いため、本県の栽培条件における特性について明らかにする。ここでは、花芽分化特性と花房の連続性について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「恋みのり」の頂花房の花芽分化は、「さちのか」と比べ同等か早い傾向となる(図1)。
2. 「恋みのり」は「さちのか」と同時に定植すると、「さちのか」より頂花房出蕾日はやや遅くなるが、収穫開始日が早まり、頂花房頂果の成熟日数は短くなる(表1)。
3. 「恋みのり」は頂花房と第1次腋花房の花房間葉数が「さちのか」より少ない(表1)。
4. 「恋みのり」は「さちのか」と比べ平均1果重が重く、1月までの第1次腋花房収穫開始株率が高く、1月までの収量が多くなる(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 2017年の最低気温は、9月1半旬が19.7℃(平年比-2.1℃、農林技術開発センター気象観測データ)、9月2半旬が20.1℃(平年比-1.3℃)であり、平年に比べ最低気温が低い条件での結果である。
2. 「恋みのり」は第1次腋花房の連続性に優れるが、心止まり株発生の恐れがあるため、腋芽は除去せず放任する。

[具体的データ]

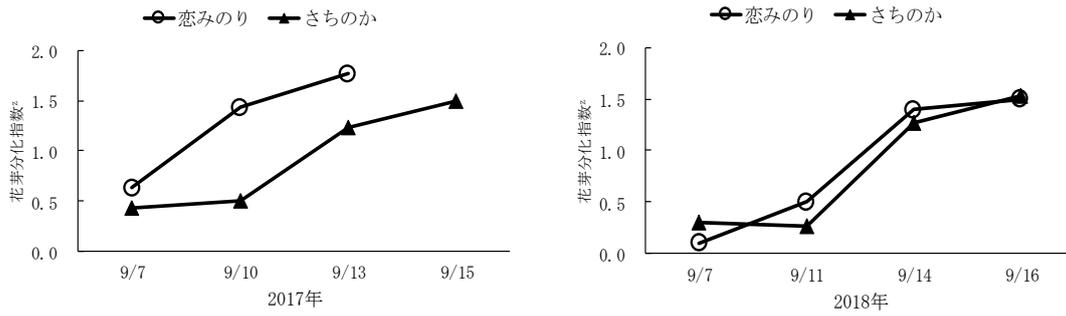


図1 頂花房の花芽分化の推移

z: 花芽分化指数: 0.0-未分化、0.5-肥厚初期、1.0-肥厚中期、1.5-肥厚後期(定植適期)、2.0-2分割期

表1 頂花房の出蕾、開花、収穫開始日、成熟日数及び花房間葉数

年次	品種	定植日 (月/日)	頂花房			頂花房頂果 成熟日数 (日)	頂花房~第1次 腋花房間葉数 (枚/株)
			出蕾日 (月/日)	開花日 (月/日)	収穫開始日 (月/日)		
2017年	恋みのり	9/15	10/13±1 ^z	10/23±1	11/25±2	32.4	5.1
	さちのか(対照)	9/15	10/11±1	10/23±1	11/27±2	35.0	6.5
有意差 ^y						*	*
2018年	恋みのり	9/16	10/18±1	11/3±1	12/7±1	34.4	1.9
	さちのか(対照)	9/16	10/16±1	11/2±1	12/11±2	39.1	5.7
有意差 ^y						**	**

z: 表中の±は95%信頼区間の幅

y: t検定により表中の*は5%水準、**は1%水準で有意差あり

表2 時期別の第1次腋花房収穫開始株率と収量、平均1果重

年次	品種	第1次腋花房収穫開始株率		収量		平均1果重 11~1月 (g/果)	
		12月まで (%)	1月まで (%)	11~12月 (kg/a)	11~1月 (kg/a)		
2017年	恋みのり	20	20	159(133) ^z	207(145)	21.5	
	さちのか(対照)	0	0	120(100)	143(100)	15.1	
有意差 ^y						*	*
2018年	恋みのり	55	80	111(114)	244(177)	23.4	
	さちのか(対照)	0	5	97(100)	138(100)	16.4	
有意差 ^y						**	**

z: ()内数字は同年の「さちのか」を100とした場合の比率(%)

y: 第1次腋花房収穫開始率はカイ二乗検定により*は5%水準、**は1%水準で有意差あり

収量と平均1果重はt検定により*は5%水準で有意差あり、nsthは有意差なし

○耕種概要

育苗方法: 高設雨除け育苗、10.5cmポリポット受け苗、切り離し日: 2017年6月13日、2018年6月7日

施肥量: N-200mg/ポット

本圃栽培方式: 長崎県型高設栽培、基肥施肥量: N-16.6kg/10a、栽植距離: 株間20cm 2条千鳥植え(700株/a)

マルチ被覆日: 2017年10月17日、2018年10月16日、ビニール被覆日: 2017年10月18日、2018年10月18日

[その他]

研究課題名: 単収日本一を目指したイチゴ「ゆめのか」の増収技術開発

予算区分: 県単

研究期間: 2016~2018年度

研究担当者: 前田 衡、野田和也、松本尚之